

もっと学びたいあなたへ オススメ書籍

もっと発達障害や発達保障について学びたい、深めたいと思った方は、下記の全研出版部の本がオススメです。ぜひ一読ください。

I 発達障害や自閉症スペクトラム障害に関するもの

★奥住秀之・白石正久編『自閉症の理解と発達保障』

最新の知見から実践まで、自閉症に関する9つの論考で構成されています。発達保障の観点から自閉症をどのように考えるのか、この本をもとに議論してください。

★別府悦子著『発達障害の人たちのライフサイクルを通じた発達保障』

ライフサイクルの視点で書かれた貴重な一冊です。“発達保障”と“希望”をキーワードに、読み進めてください。

★別府哲著『自閉症児者の発達と生活—共感的自己肯定感を育むために』

本書でも取り上げた自閉症・発達障害児の自己肯定感についていねいにまとめられています。「自分は自分であっていい」という「誇らしい自分」のねうちがわかります。

★奥住秀之著『どうして？ 教えて！ 自閉症の理解』

本書の「姉妹書」ともいうべきものです。本書と同じく、導入がマンガというスタイルは、自閉症について学びたい方の入門書として最適だと思います。

II 発達や発達保障に関するもの

★丸山啓史・河合隆平・品川文雄著『発達保障ってなに？』

発達保障について、発達や子ども観、原理・歴史、そして実践と多角的に学べます。発達、障害、生活の観点をもって発達障害児者とかかわる重要性がわかります。

★白石正久・白石恵理子編『教育と保育のための発達診断』

乳幼児期・学齢期の発達の道すじ、成人期の発達の道すじ、発達の節など、発達保障と発達について基礎から学べ、深めることができる一冊です。

おわりに

全国障害者問題研究会（全障研）の月刊誌『みんなのねがい』に「どうして？ 教えて！ 自閉症の理解」（「どうして？ 自閉症」）の連載をもったのは2007年度、ちょうど特別支援教育が法的に始まったときでした。幸い、この連載は多くの方に関心をもっていただき、翌年同じタイトルの単行本として出版されました。

その後、自閉症以外の発達障害一般の知識も整理したい、他の発達障害との相違点を確認したい、発達障害を発達保障の視点から考える題材がほしい、といった読者の声を耳にするようになりました。情勢もまたこの間、ずいぶん変わってきました。

そこで、2012年度、自閉症だけではなく発達障害一般を取り上げて、「どうして？ 教えて！ 発達障害の理解」という一年間の連載を『みんなのねがい』にもたせていただきました。本書は、その連載に加筆・修正を行い、再構成したものです。「どうして？ 自閉症」と本書は文字通り「姉妹書」ですので、あわせてお読みいただくことで、自閉症・発達障害の理解がより深まることと思います。

*

連載では、「どうして? 自閉症」と同じく、いばさみさんにマンガを描いてもらいました。連載執筆にくじけそうな私を励ますステキなマンガを、ほんとうにありがとうございます。また、『みんなのねがい』編集部の方々には、内容の方向性、文章表現など毎回チェックしていただきました。とりわけお骨折りいただいた編集長の妹尾豊広さん、編集担当の児嶋芳郎さんに感謝いたします。

私が『みんなのねがい』に連載し、単行本として上梓できるのは、学生時代に全障研に引き合わせてくださった二人の恩師、東北大学名誉教授の松野豊先生、茨城大学元教授の鈴木宏哉先生のおかげです。この場をお借りしまして、深謝申し上げます。

*

執筆を終えて思うことは、この一冊があれば、発達障害の基本的な理解はおおむね十分だろうということと、一方で、論じきれなかったこともたくさんあるということ。たとえば、教育関係の事項に重きを置きつつ、発達障害児者の支援にかかわるすべての読者を対象にしたため、それぞれの領域で大切にすべき視点がぼやけてしまったところがあります。また、課題や論点を提起しつつも、私の力量不足もあって、その解決の方向性や内容までは、十分論じられなかったところも少なくありません。

深められていない点については、職場のなかま集団などで学習会を組織し、論議を

していただけたらと思います。同僚性による学びと支え合いが、教師の専門性を豊かにする、働く集団の質を高める要因の一つであることは言うまでもありません。本書がその役割を少しでも果たすのであれば、著者としては望外の喜びです。

*

本書印刷のまさに直前、DSM-5が発刊されました。これで発達障害の見方が突然大きく変わるとは思えませんが、近いうちには翻訳も出版されるでしょうし、徐々にこの新たな診断基準の理解も必要になってくるでしょう。そのとき、何が変わって何が変わらないのかという視点で本書の前半部をご活用いただければと思います。

*

最後になりますが、すべての人が誇りをもって、健康で文化的に生活できる社会、周囲の人たちを尊重し合い支え合いながら、だれもが安心してくらせる社会。発達障害を理解するということは、そうした社会の実現に向けた第一歩と言っても言いすぎではないでしょう。みんなのねがいをたばねながら、そうした社会に向けて、これからも一歩一歩、ともに前進していきましょう。